

### 第3回沼田市市民構想会議概要

- 1 日 時 平成27年7月17日（金）午後2時から午後4時20分
- 2 場 所 沼田市役所 北庁舎 第二・第三会議室
- 3 出席者 委員 23名（欠席13名）  
アドバイザー 篠田暢之氏  
沼田市 副市長、総務部長、市民部長、健康福祉部長、都市建設部長、  
教育部長  
（事務局：企画課長、企画課長補佐兼企画係長）

#### 4 会議概要

##### (1) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる施策について

###### 各委員からの主な意見

- ・ 子どもが病気になった時に安心して預けられる施設がほしい。働く場所がないので、企業誘致が必要。
- ・ 婚活事業の実施により、都市から若者を連れてくる。春夏秋冬、沼田の四季に合わせた観光宣伝とリンクさせた婚活事業の実施。婚活実施の経験から、男性が消極的であることに難しさがある。
- ・ 就学前児童用に遊具が充実した公園の整備（木材を活用したPR効果、花壇の整備）、小学生用に放課後と夏休み期間中に預かってもらえる施設の充実。少子化対策として、若い人に結婚してもらうために、20代で結婚したら祝金を支給する。また、結婚式の費用助成。GB21を冬期間も利用できる屋内施設として活用。小学生、中学生、高校生、高齢者等フロアごとに使用できるようにしたらどうか。
- ・ 産婦人科の充実。大学生に係る費用の補助。雇用の問題。
- ・ 沼田駅前の駐車場整備を行い、通勤者の利便性の確保による市外転出者の歯止め。行政指導による民間企業の育児休暇制度の充実。
- ・ 一時金を支出するのではなく、働く場所の確保と居住環境の整備。観光面の充実。婚活を積極的に実施する。育児休暇制度の充実。
- ・ 生涯コストが上昇すると出生率が低下する。子どもの遊ぶ場所を確保するためには、モータリゼーションが進行している現状にあるが、歩行できる距離が問題になる。パブリックスペース確保の必要性。生活コストがかからない空間、スペースをつくること。
- ・ 白沢町は教育環境が整っている。地域が一体になっている。地域ぐるみという点では、利根町も同様であるが、生活していく点では不便を感じた。婚活については、男性が消極的である。
- ・ 子どもの遊ぶ場所がない。児童館（屋内型施設）の設置。お母さん方のコミュニケーションの場にもつながる。
- ・ 今の農業は専業化し大規模になっており、海外からの研修生に頼っている現状がある。若者がいなくなると仕事が維持できなくなる。

(2) 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する施策について

各委員からの主な意見

- ・ グリーンベル21の再生が最優先事業。3.3.1環状線事業の整備促進。街なかの歩道整備など。街なかに日本ロマンチック街道の案内所発着ロータリーの整備。
- ・ 人口減少、小さな拠点のサービスについては、町ごとに住民が出資し、会員の会費などでサービス会社を設立し、住民がサービスの提供を受ける。(高齢者の買い物サービス、子どもの送迎など)これは、雇用の確保にもつながる。町ごとのブランド化の展開も図られる。
- ・ 一人暮らしの人たちも活用できる交流サロンの設置が必要ではないか。
- ・ 歴史的遺産を展示する博物館の設置。中心市街地を歩いて暮らせるまちづくり(コンパクトシティ化)、公共交通機関の充実と土地利用の促進。
- ・ 川場村で開催されたシンポジウムに参加し質問した。この地域は子育て環境の充実を行うことで人も集まり、地域のまとまりも出ていくとのことであった。また、この地域は国のモデル地区として捉えられているとのことであった。沼田独自のふるさと教育論を持つことが大事。
- ・ コンパクトシティ化について、病院を拠点とした周辺地域に生活施設を集約し、公共交通網の整備等も合わせて行っていくことがよいのではないか。また、中心は旧沼田(本庁通り)でなくてもよいのではないか。核家族化が進行し、親との同居が少なくなったことから、子育ても大変になった。
- ・ 地区公民館を集会所としての活用。小中学校の統廃合により、校舎の利活用。沼田公園野球グラウンド、テニスコートをイベント広場や子ども広場とした利用。
- ・ 計画や施設利用等については、対象者に周知徹底されていないと無駄になる。また、理解してもらうような努力も必要。
- ・ 農村と中心部の環境が大きく異なることから、中心市街地については、既存の中心市街地を活かす方がよい。都市と農村とでは、同居できる住宅環境も大きく異なっている。
- ・ 商業的拠点は、中心市街地から郊外に移っている。全ての施設を中心市街地に集約するのではなく、グリーンベル21や白沢等に施設を配置するなどの分割案もあると思う。
- ・ 移動手段は車しかない。車を使用しなくても移動できるのが中心市街地だと思っている。
- ・ 沼田モデルとして、幼児教育の徹底。ふるさと納税を特化した奨学金施策の検討。小さな拠点は、各地域を拠点化していく。例えば、白沢支所周辺、老神周辺、上之町周辺、下之町周辺など。

(3) その他

次回の会議は、8月25日(火)午後2時から中央公民館3階第1講義室で開催